

令和 6 年 9 月 19 日現在

機関番号：32529

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10251

研究課題名（和文）教養教育と専門教育を架橋する「看護人文学」の構築に向けた基礎的研究

研究課題名（英文）Foundational Research Toward Constructing "Nursing Humanities" that Bridges General Education and Specialized Education

研究代表者

足立 智孝 (Adachi, Toshitaka)

亀田医療大学・看護学部・教授

研究者番号：70458636

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、看護系大学の教養教育と看護学の橋渡しとなる「看護人文学」の構築に向けた基礎的な資料を提供することを目的とする。具体的には、看護教育において「看護人文学」という名称が異なる理由について、以下の点を明らかにした。1. 看護師養成の教育課程では、患者の個別性に注目することが大前提であり、価値教育の必要性は低いこと、2. 「看護人文学」という表現が使用されていないだけで、すでに看護教育においてさまざまな人文学教育が行われていたこと、3. 日本の看護系大学における人文学科目「倫理学」は、教養科目、看護専門科目、統合科目として位置づけが異なっており、統一されていないこと。

研究成果の学術的意義や社会的意義

看護師自身が患者の価値に注目する職業であるとの観点から、看護基礎教育課程において価値教育を担う人文学教育の重要性を明らかにしたことの意義は、今後の看護教育においてさらなる人文学教育の展開の思想的基盤を与えられたことである。

研究成果の概要（英文）："This study aims to provide foundational material for the development of 'Nursing Humanities,' which bridges general education and nursing education in nursing universities. Specifically, I clarify the reasons why the term 'Nursing Humanities' is not consistently used in nursing education: 1. In nursing education, emphasizing individual patient uniqueness is fundamental, and the need for value education is considered low. 2. Although the expression 'Nursing Humanities' is not commonly used, various forms of humanities education have already been implemented in nursing education. 3. The positioning of the humanities subject 'Ethics' in Japanese nursing universities varies, with some institutions categorizing it as a general education course, a nursing specialty course, or an integrated course."

研究分野：医療人文学、生命倫理学

キーワード：看護人文学 教養教育 人文学教育 看護基礎教育課程 看護実践能力

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 看護系大学教育における教養教育の位置づけ

わが国の大学における教養教育は、第二次大戦後に米国のリベラルアーツ教育を参考に始められた。大学は教養を基盤にして、その上に学問研究と職業人育成を一体化する理念を掲げて、教養教育が行われてきた。しかし様ざまな問題が顕在化したために、文部省(当時)の1991年6月に大学設置基準の大綱化により、すべての大学の教養教育と専門教育の区分等が廃止され、教養教育を含めた教育改善は各大学の自主性に委ねられることになった(中村『医学教育』46(4), 2015)。教養教育に関してはさらに、2002年に中央教育審議会が「新しい時代における教養教育の在り方について」の中で、専門分野を超えて共通に求められる知的思考法、グローバル化や科学技術の進展など激しい社会の変化に対応しうる新しい教養教育を各大学が作っていく必要性を提言した。

大学設置基準大綱化を受け、看護教育においては1991年に大学基準協会が「看護学教育に関する基準」を作成し、教養教育は看護系科目とは別に学生が一人の人間として求められる能力、すなわち確かな価値観に基づく判断力や行動力を身に付けるために必要であるとし、教養教育の意義を確認した。さらに大学基準協会「21世紀の看護学教育のあり方」(2002年)には、教養科目は、看護学の専門科目と有機的に作用しあい、専門職に期待される科学的思考力、責任性、自律性、論理性、柔軟・国際性、総合判断力等を相補的に高めるものとの見解を示し、教養科目と専門科目の有機的な連携の必要性が強調された内容となっている(和木ら『千里金蘭大学紀要』2009)。

2004年の文科省「看護学教育の在り方に関する検討会」報告書にある「看護実践能力育成の充実に向けた大学卒業時の到達目標」の「学士課程における看護学教育の特質」には、「教養教育が基盤に位置づけられる課程であること」が看護学教育の特質の一つであると明記され、教養教育を基盤に位置づけた卒業時到達目標が示された。またこの目標には、看護実践能力と教養教育科目との関連が示され、教養教育科目が看護実践能力と結びついた内容であることを求められている。しかし、具体的にどの教養教育科目がどのような看護実践能力と関連付けられるのかについての研究はさほど多くはない。

(2) これまでの研究成果

研究者は、現在までに医療人文学(Medical humanities)に関する研究を進めてきた。医療人文学とは、1960年代後半に米国で提唱された、医療者に対して人文系科目(一部、社会科学を含む)をどのように教育するかを考えた教育プログラムである。医療人文学に含まれる科目には、哲学、倫理学、文学、歴史学、人類学、宗教学、芸術などがあり、その教育目的は医療者の「情緒能力」および「理性能力」を向上することである。情緒能力向上の具体的内容は、他者に対する思いやり、感受性、共感力の向上であり、理性能力向上のそれは、倫理的かつ批判的な思考能力の向上と考えられている(Self, *Theoretical Medicine* 9 (1988))。

現在、医療者に対する人文系科目の教育としては「倫理学」的方法を用いた「医療倫理学」や「看護倫理(学)」分野の研究蓄積が豊富である。しかし米国で医療人文学について検討された当時には、倫理学以外の人文系科目を医療者教育に用いる意義についても検証がなされた(Callahan et al, *On the Uses of the Humanities* (1984), *Applying Humanities* (1985), Valiga and Bruderle, *Using the Arts and Humanities to Teach Nursing* (1997))。

(3) 理論的基盤の必要性

先述したように、大学基準協会や文科省の報告書等には、教養教育の重要性、専門教育との有機的連携、看護実践能力との関連性が明示されるとともに、期待されている。しかしながら、各教養教育科目がどのような看護実践能力と結びつくのかといった具体的内容を検討した研究は少ない。この分野に関する研究が少ないと考えられる理由としては、人文系科目の教育的意義と看護実践能力を結びつけるに当たり、その基礎的研究が進んでいないことが考えられる。そこで本研究では、教養教育科目を臨床実践と関連づけて展開されている医療人文学の教育実践や理論等を参考に、看護実践能力と関連付けた人文系科目の教育的意義について検討する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、看護系大学学士教育課程における「人文系教養教育科目」のあり方を検討するために、「看護人文学」構築のための基礎資料を蓄積することである。わが国では看護教育の大学化が進み、看護系大学学士課程における一般教養教育科目の充実や専門科目との連携を考慮したカリキュラム展開の必要性が指摘されている。しかし、教養教育の意義は十分に理解されているとはいえず、また教養教育科目と専門科目との接続性あるいは学士課程修了時目標との関連性については必ずしも明確でない。そこで、本研究では医学系カリキュラムで人文系科目を意義づける「医療人文学」の議論を参考に「看護人文学」を構築するため、看護学士課程の修了時目標である看護実践能力の観点から、本研究では特に倫理学関連科目の内容を中心に検討する。具体的には以下の三つの目的を掲げる。

- (1) わが国の看護系大学学士課程の倫理学関連科目の教育実態とカリキュラム内での位置づけを明らかにする。
- (2) 看護系大学学士課程における倫理学関連科目の教養科目あるいは専門科目としてのそれぞれの意義を明らかにする。
- (3) 倫理学関連科目を看護実践能力の観点からの意義を検討する。

3. 研究の方法

- (1) 科目調査
 - 1) 大学ホームページ上での倫理学関連科目の設置状況を把握するシラバス調査
 - 2) シラバス調査で確認できない可能性の高い倫理学関連科目の種別(教養科目、接続科目、専門科目)及びそれら倫理学関連科目と学士課程修了時の到達目標との関連性等の質問紙調査)
- (2) 情報収集(文献および学会参加)
 - 1) 医療人文学の理論的基盤に関する最新情報の収集
 - 2) 看護実践能力の考え方に関する最新情報の収集

4. 研究成果

- (1) 科目調査
日本看護系大学協議会会員校として掲載された290校(2021年5月現在)を対象にwebサイト上でのシラバス調査を行った。
その結果、日本の看護系大学における人文学科目である「倫理学に」関連科目は、科目名は、「倫理学」「生命倫理」「看護倫理(学)」「医療看護倫理」など様々であった。また科目の位置づけは、教養科目、看護専門科目、統合科目として位置づけが異なっており、各大学において異なっていた。科目名によって、教養科目(共通科目/基礎科目)であるのか、あるいは看護専門科目や統合科目の配置なのかを区分する大学も多く見られた。しかし、シラバスを見る限り、教育内容と教育目的が必ずしも合致しないと思われるものもあり、また教育課程における科目配置との関連が不明確であるものも散見された。

- (2) 情報収集

医療人文学(Medical humanities)の理論的基盤に関する最新情報については、近年新しい文献が相次いで出版されている状況を把握できた。米国Therese Jonesら3人の編者による*Health Humanities Reader*(2014)は、Health Humanitiesの語を用いた初めての書籍で、Medical Humanitiesの分野で活躍してきた研究者たちによる論文集であった。本書からは、近年の学術的展開に照らし、必ずしも「medical」の枠で収まらないトピックを「health」の語を用いて、

その枠に収めることによって、「正確な表示」になると判断したように理解した。また、ほぼ同時期に出版されたる英国の Paul Crawfordら 5人の共著による *Health Humanities* (2015) では、従来は「医療人文学」として「人文学」の研究手法の「医療 medical」へのアプローチとして捉えられてきたが、近年は「医療」という枠組みよりも広い「健康 health」の概念が用いられる傾向にあること、「health」を用いることで、教育対象が医学だけでなく、医学以外の看護学を含む保健医療分野まで拡大する可能性のあることが論じられていた。今後は「health humanities 健康人文学」という枠組みも参考にして、看護人文学の構築を構想する必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 足立智孝	4. 巻 42
2. 論文標題 Medical Humanities からHealth Humanities への 展開に関する一考察	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 医学哲学 医学倫理	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立智孝	4. 巻 86
2. 論文標題 アドバンス・ケア・プランニングにおける「話し合い」あるいは「対話」に関する一考察 ナラティブ・アプローチを手がかりにして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 モラロジー研究	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 角田ますみ	4. 巻 16
2. 論文標題 介護現場で生じやすい倫理的問題と介護倫理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 介護人財	6. 最初と最後の頁 5-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 足立智孝	4. 巻 64
2. 論文標題 認知症高齢者に対する意思決定支援と倫理的課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 看護技術	6. 最初と最後の頁 21-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計21件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 看護学教育における人文学教育の意義 欧米における議論を参考にして
3. 学会等名 第41回日本医学哲学・倫理学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木玲子・足立智孝
2. 発表標題 エンドオブライフ期にある透析患者に関わる新人看護師への支援に関する実践報告
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第5回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田案美加・足立智孝
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染拡大状況下での、施設入所中の利用者と家族の関わり
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第5回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田案美加、足立智孝
2. 発表標題 高齢者一人世帯の地域とのつながりの重要性について
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 鈴木玲子、足立智孝、谷本真理子、櫻井智穂子
2. 発表標題 長期透析患者の治療選択支援に向けた一考察
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 新川美穂、足立智孝
2. 発表標題 慢性疾患とともに生きる対象のアドバンス・ケア・プランニング 1型糖尿病患者の語りから
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋玲子、足立智孝
2. 発表標題 患者・家族の意思を尊重するための医療者としての関わり
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第4回学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Adachi, Toshitaka
2. 発表標題 How Japanese Nurses Learned Injustice from Patients' Illness Narratives
3. 学会等名 The 9th International Health Humanities Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 角田ますみ
2. 発表標題 アドバンス・ケア・プランニングと意思決定のあり方
3. 学会等名 日本医療マネジメント学会第20回東京支部学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田案美加、足立智孝
2. 発表標題 人工呼吸器の装着を選択した患者・家族の意思決定
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新川実穂、足立智孝
2. 発表標題 維持透析を自らの意思で継続中止した事例
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第3回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 医療における対話の意味 オープンダイアログを手がかりにして
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 MASUMI SUMITA
2. 発表標題 Development of Ethics Training Program for Care Workers Using Strength Finder
3. 学会等名 20th Nursing Ethics Conference and 5rd International Ethics in Care Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 角田ますみ
2. 発表標題 ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの開発と評価
3. 学会等名 第31回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 看護専門教員と看護専門でない教員との協働
3. 学会等名 日本看護倫理学会第11回年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 医療における「話し合い」あるいは「対話」の意味 ナラティブを手がかりにして
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 角田ますみ
2. 発表標題 ストレングスファインダーを用いた介護倫理研修プログラムの開発
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MASUMI SUMITA
2. 発表標題 Current Ethics Education in Care Worker Training Courses at Japanese Universities by Syllabus
3. 学会等名 19th Nursing Ethics Conference and 4rd International Ethics in Care Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 闘病記から紐解くエンドオブライフ
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第6回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田案美加、足立智孝
2. 発表標題 前立腺肥大症にて一時的に膀胱留置カテーテル挿入となった患者に対する生活支援の効果的な看護師の関わりについて
3. 学会等名 日本エンドオブライフケア学会第6回学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 足立智孝
2. 発表標題 Medical HumanitiesからHealth Humanitiesへの展開に関する一考察
3. 学会等名 第42回日本医学哲学・倫理学会大会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計11件

1. 著者名 足立智孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 242
3. 書名 薬学人のための事例で学ぶ倫理学	

1. 著者名 角田ますみ	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 182
3. 書名 患者・家族と一緒に作るアドバンス・ケア・プランニングノート-話して書いて患者の「希望」を見える化しよう	

1. 著者名 角田ますみ	4. 発行年 2019年
2. 出版社 メヂカルフレンド社	5. 総ページ数 287
3. 書名 患者・家族に寄り添うアドバンスケアプランニング-医療・介護・福祉・地域みんなで支える意思決定のための実践ガイド	

1. 著者名 足立智孝他 (丸山マサ美編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 川島書店	5. 総ページ数 245
3. 書名 バイオエシックス その継承と発展	

1. 著者名 足立智孝他 (長江弘子編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本看護協会出版会	5. 総ページ数 258
3. 書名 看護実践にいかすエンドオブライフケア 第2版	

1. 著者名 丸山マサ美他	4. 発行年 2024年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 190
3. 書名 生命倫理学概論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	足立 朋子 (Adachi Tomoko) (00789224)	亀田医療大学・総合研究所・客員研究員 (32529)	
研究分担者	角田 ますみ (Sumita Masumi) (40381412)	杏林大学・保健学部・准教授 (32610)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------